

- 新収資料の紹介 1
- 2010年度の展示報告 2
- 服飾博物館トピックス 3
- 服飾博物館の社会貢献活動
- 服飾博物館の調査活動
- 2011年度展示のご案内 4

新収資料の紹介

服飾博物館では毎年さまざまな資料を収集しています。近年は特に新たな視点を加え、1960-70年代のヨーロッパ、アメリカのドレスや、染織品を製作する際に使う道具類なども積極的に収集しています。

1960-70年代のドレス

第二次大戦後、世界が急速に変化、発展する中で創造されたこの時代のモードには、それまでの常識にとらわれず、複雑化する社会を反映した多様で流動的な変化が見られます。21世紀を迎える前に、さらに10年を過ぎた今日において、1960年代、70年代はもはや歴史になりつつあり、若い世代には見知らぬ新鮮なものとして受け入れられています。



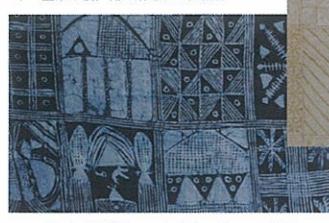
染織の道具類・未完成の染織品

出来上がった服飾・染織品ばかりに目を向けるのではなく、どのような道具と技術によって作られたのか、その過程を追求することも重要であると考えています。染織の道具類は、役割を終えた後、良好な状態で残されることの少ない大切な資料です。また染織品が出来上がる一歩手前の未完成品も、製作過程を知る上では重要ですが、通常、残されることのないものです。

染織技術の継承と、分りやすい展示の両方の観点から、このような資料の収集にも力を入れています。



右：藍染め前。でんぶん糊で防染する
下：藍染め後。糊を落とした完成品



●●● 2010年度の展示報告 ●●●

ヨーロピアン・モード 4月14日～6月12日

例年どおり春の企画として、ヨーロッパのドレスの歴史的変遷を紹介しました。今回は対象年代を1970年代まで広げ、ミニスカート登場以降の現代ファッションについても取り上げました。また特集は、女性のライフスタイルと共に、ドレスのスタイルが近代化された1920年代を取り上げました。スカートが短くなり、機能的になっていく様や、服飾材料の多様化、流行したオリエンタリズムなどをテーマに展開しました。



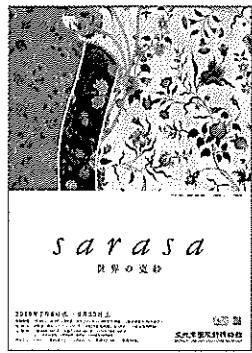
日本の型染 10月15日～12月18日

型染は、紙や木などの型を用いて文様を表現する染色技法の一つです。日本では古くから行われ、小紋・中形・型友禅・摺染・摺箔・板締などさまざまな技法の型染が見られます。本展は、きもの・紅型・庶民の服飾・公家の服飾・武家の服飾・能装束から構成し、それぞれの服飾にみられる型染の特徴を紹介しました。日本の型染の網羅的な展示はこれまでにはほとんど行われず、本展は日本の型染の多様性を紹介する機会となりました。また、来館者からは手仕事の見事さを改めて認識したという声も寄せられました。



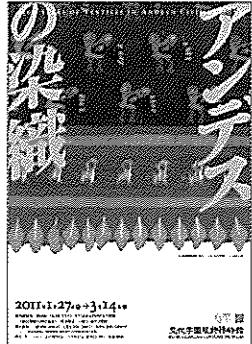
世界の更紗 7月6日～9月25日

更紗とは、主に木綿布に手描きや型を使って文様を表したものとし、その用途も衣服から室内装飾まで多様です。展示では、和更紗、インド更紗、ジャワ更紗、ヨーロッパ更紗など、世界20カ国あまりのさまざまな更紗約120点を展示しました。世界各地の更紗を一堂に紹介することは、さまざまな地域の資料を所蔵する服飾博物館ならではの企画と言えます。これにより、地域による特徴や違い、また交易による影響などが浮かび上りました。



アンデスの染織 ‘11年1月27日～3月14日

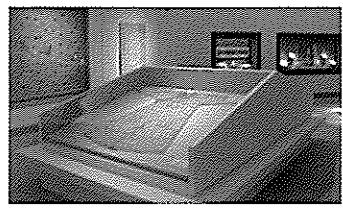
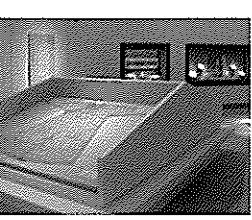
アンデス地域は近年、カラル遺跡やシカンをはじめ未盗掘墳墓の発掘などが相次ぎ、文明発展の歴史を塗り替えるのではと世界的な注目を集めています。本展では、紀元前1000年にさかのぼるチャビン文化期から、16世紀のインカ文化期まで、2500年にわたるアンデスの染織を紹介しました。複雑な織物をはじめ、染物や刺繍によって独特の文様が表された布は、乾燥した気候に助けられ鮮やかな色が残っています。観覧者からは「1000年、2000年を経たものとは思えない」との感嘆の声が多く寄せられました。



館外の展示への協力

所蔵資料を貸出し、館外の展示に協力しました。*〔〕内は、当館所蔵の貸出資料

- 「明治神宮鎮座90年記念展 ～壮大なる社づくり～ 明治神宮の創建」…〔渋沢栄一着用の大礼服〕
4月24日～6月6日 会場=明治神宮文化館
- 「シルバージュエリーの美と文化展 ～アジアの装身具より～」…〔パレスチナ地域の装身具と衣装 12点〕
6月10日～30日 会場=ミキモト本店 ミキモトホール
- 「夏季特別展 アジアのかざり」…〔18世紀の中国の龍袍や江戸時代の小袖など 11点〕
7月10日～8月15日 会場=MIHO MUSEUM
- 「トナカイのパークとアザラシのブーツ ～北方の衣文化をさぐる～」…着装方法の図解イラスト提供
7月17日～10月17日 会場=北海道立北方民族博物館
- 「エリザベス・ギャスケル 生誕200年記念展」…〔1830年代のドレスと帽子 4点〕
9月27日～10月3日 会場=実践女子大学香雪記念館
- 「朝香宮のグランドツアー」…〔朝香宮鳩彦王所用の旅行用トランク〕
12月11日～‘11年1月16日 会場=東京都庭園美術館
- 「皇女和宮と中山道」…〔和宮所用の腰刀と懐剣拵〕
‘11年3月26日～5月8日 会場=埼玉県立歴史と民俗の博物館

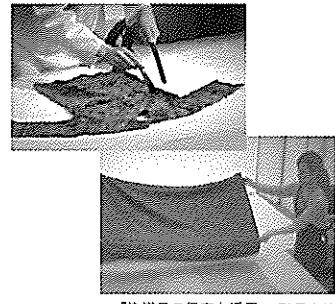


服飾博物館の社会貢献活動

服飾博物館は、服飾品・染織品を取り扱う数少ない専門博物館として、館内の展示のみならず、外部機関に保存や展示に関するアドバイスや協力を実施し、服飾・染織資料を展示や教育活動に役立てるための情報を提供しています。今後、資料のよりよい活用方法や保存に対する科学的な知識が、美術館・博物館のみならず、広く社会全体で共有できるよう努めたいと思います。

◎ 東京文化財研究所『染織品の保存と活用』制作に協力

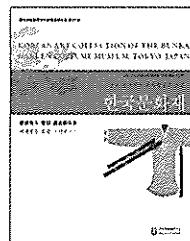
東京文化財研究所・文化遺産国際協力センターが企画した動画付きテキスト『染織品の保存と活用』(DVD 38分、日本語／英語対応)の制作に当館が全面的に協力しました。このDVDは、染織品に関する基礎知識、保存や取扱い方法、さまざまな形や状態の染織資料を展示するためのテクニックに関して分かりやすくまとめたものです。映像には、服飾博物館の資料収蔵庫の保存の状況や、当館学芸員が実践的に資料を取り扱う様子がおさめられています。このDVDは、主に海外の博物館・美術館の学芸員向け研修教材として利用され、各国の人材育成に役立てられます。服飾博物館が30年にわたって築きあげたノウハウが、今後各国で活かされることになるでしょう。



『染織品の保存と活用』DVDより

◎ 韓国・国立文化財研究所による国外所在韓国文化財調査に協力

韓国の国立文化財研究所では、国外にある韓国の文化財の現状を把握し、学術研究資料を収集するため、1992年から国外の美術館・博物館での現地調査を行っています。この調査の一環として、服飾博物館の所蔵する朝鮮王朝末期の宮廷衣装を含む服飾資料の調査が行われました。調査は2008-09年にかけて2度にわたり、専門の研究者チームが来日し、資料一点一点の撮影、採寸、素材や製作方法にいたるまで記録されました。調査には当館スタッフも立ち会い、互いに情報交換を行いながら調査を進めました。調査の結果は、300ページに及ぶ報告書にまとめられ、昨年、韓国で刊行されました。

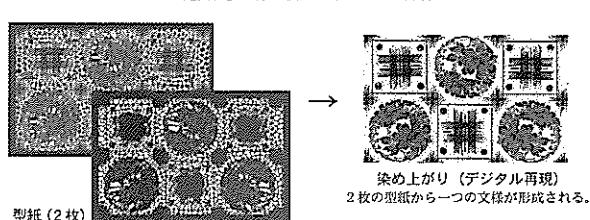
国外所在韓国文化財調査報告書第20巻
『日本文化学園服飾博物館所蔵 韓国文化財』

服飾博物館の調査活動

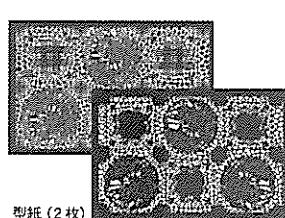
服飾博物館では、服飾に関する調査活動を積極的に行ってています。服飾は、私たちの生活で最も身近であるがゆえに、系統だった記録や研究がなされることなく、いつのまにか忘れ去られてしまう懸念があります。過去の情報を整理し、まとめることで、優れた服飾文化を後世に伝えるとともに、今後の発展に役立てていきたいと考えています。

◎ 染色用型紙の調査

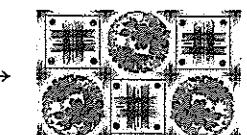
服飾博物館では、型染に用いる型紙を約1,000枚所蔵しています。これらの型紙には商印が捺されているものもあり、年代や生産地、製作した型屋が特定でき、型の流通や地域の特徴を知るうえで大きな手がかりとなります。また、複数枚の型紙で一つの文様が完成する「追掛型」に関しても、染め上がりイメージのデジタル再現を試みています。当時の手法や技術から、日本の高度な服飾文化の一端が見えてきます。



「追掛型」の染め上がりイメージの再現



型紙(2枚)

染め上がり(デジタル再現)
2枚の型紙から一つの文様が形成される。

◎ 『被服』の調査

『被服』は、陸軍省の外郭団体であった被服協会から昭和初期に刊行されていた会誌で、国民衣服の改善や被服常識の普及、被服の手入れや保全の指導などが目的とされました。被服協会では、国外の服飾資料の収集・調査なども積極的に行われ、特に東アジア、東南アジア、オセアニア地域を中心に、気候と衣服、機能性、素材、裁断などが科学的な見地から調査・報告されています。これは、日本における民族衣装研究の先駆けともなり、現在でも基礎となって生かされています。

服飾博物館の所蔵資料の一部には、被服協会の収集品が含まれます。文献資料と実物資料を照合し、さらに当時の社会背景を探ることで、国家が服飾を戦略的に活用しようとした事実や意図が明らかとなるでしょう。

当館所蔵の台湾の民族衣装
『被服』表紙の図と一致する。『被服』昭和18年5月
文化学園図書館所蔵
表紙には台湾の民族衣装が
図入りで解説されている。

●●● 2011年度 展示のご案内 ●●●
Exhibition Schedule

4月13日～6月11日
ヨーロピアン・モード

*5/22は開館
*4/22、5/13、6/10は19:00まで開館

めまぐるしく変化する今日のモードの流れをとらえるためには、歴史に学ぶことが多くあるとの観点から、毎年この時期にモードの歴史をたどる展覧会を企画しています。大きく広がった長いスカートが特徴の18世紀のロココ時代からミニスカートが登場した1970年代までのヨーロッパの女性モードの変遷を紹介しながら、モードを生み出す背景となる社会的要因との関連についても触れています。加えて本年はイギリスのロイヤル・ウェディングにちなみ、さまざまな時代のウェディング・ドレスを特集します。



ウェディング・ドレス
イギリス 1840年頃

7月5日～9月24日【夏期休館:8/13-20】 *7/24、8/7、8/21は開館
*7/8、9/9、9/16は19:00まで開館
暑さと衣服－民族衣装にみる涼しさの工夫－

近年の猛暑はこれまでの衣服や装い方では対応しきれなくなっています。暑さをしのぎ、快適さを求めるための工夫を、東南アジア、アフリカなど暑い季節の長い地域の民族衣装の中に探ります。永年の民族の知恵によって素材や形態が暑さに対処できるように工夫されている民族衣装からは、現代においても有用な方法を多く見出すことができるでしょう。文化・衣環境学研究所の協力によって、伝統の中にある科学的な要因を検証し、現代の衣服への応用も考察します。



単衣 江戸時代後期



男性用衣装
中東湾岸地域
2005年頃



女性用衣装
インドネシア
20世紀中頃

10月14日～12月17日
世界の縫

*11/3は開館
*11/11、12/2、12/16は19:00まで開館

縫は古くから世界各地で行われてきた染織技法の一つです。あらかじめ織り糸を染め分け、文様を施してから織るもので、経糸に染めを施す経縫、縄糸に施す縫縫、経縫両方向に施す経縫縫があります。素朴な幾何学文様から複雑で精緻な絵画的な文様まで、さまざまな表現が見られ、境目がかずれる文様からは柔らかさや独特な動きを感じられます。展示では、日本をはじめ、アジア、ヨーロッパ、アフリカなど、約20か国の大規模な縫を紹介し、それぞれの地域の特色を探ります。



布団製(部分)
久留米地方 明治時代



掛布(部分)
インド 19世紀末



カシミア・ショール
フランスまたはスペイン
1860年頃



カシミア・ショール
フランスまたはスペイン
1860年頃

*12年1月27日～3月14日 *3/11は開館
*2/10、2/24、3/9は19:00まで開館
ペイズリー文様－発生と展開－

ペイズリー文様とは、勾玉に似たしづく形の文様を指します。ペイズリー文様の起源は、インド北部のカシミール地方の可憐な花文様でしたが、序々に様式化し、さらに18世紀に入ってインドの染織品がヨーロッパや周辺地域にもたらされたことで、それぞれの地域に広がりました。展示では、起源となったインドの花文様から、ヨーロッパで流行した細長く複雑なデザイン、アジア・アフリカ各地域で取り入れられて独自の解釈が加わったものまで、ペイズリー文様の変化と地域的な広がりを紹介します。

*上記の予定は都合により変更されることがあります。

利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30 (各展示会期中3回、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆ 入館料 一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円
(*内は20名以上の団体料金、障害者とその付添者1名は無料)
- ◆ 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分



文化学園服飾博物館
〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7
TEL: 03-3299-2387
<http://www.bunka.ac.jp>

学校法人 文化学園
文化学園大学/文化ファッション学院/文化服装学院/
文化外国语専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館